

＜本時の主張＞

本時は私たちの暮らしと民主政治における国政単元のまとめとする。「選挙の意義」について、投票を義務化すべきかどうか各種資料から読み取り、交流を通して、国民が投票すべき理由を説明できることを目指す授業である。

選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことにより、これまで以上に、子どもの国家・社会の形成者としての意識を醸成するとともに、課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えをつくっていく力を育むこと等が重要となっている。このような状況を踏まえ、文部科学省では、平成27年11月9日に義家文部科学副大臣の下に「主権者教育の推進に関する検討チーム」を設置し検討を行った。幼児期から高等学校段階までにかけて、それぞれの発達段階において社会参画の態度を育むための指導方法の在り方や体験的・実践的な学習プログラムについて調査研究を実施している。民主政治を学び、「公民的資質」の基礎を養うことは、主権者としての自覚をもつことにつながる。

生徒達は学習に意欲的に取り組み、政治への興味関心が高い。そのため、各単元でテーマを設定し学習内容を深く掘り下げることが好む生徒が多い。そのような生徒達に主権者教育の視点から「選挙の意義」をとらえさせたい。そこで、本時では次の2つの手だてをとる。

①主権者教育の視点から「選挙の意義」をとらえさせる。

単元型の2時間構成とする。1時間目に総務省が推進する主権者教育教材を活用し、学習課題を設定する。本時は2時間目で、投票を義務化すべきかどうか交流させる。「スケール」により意思表示が可視化され、交流を通して新たな気づきを生み出させる。

②まとめを生かした学習活動として、白票が3位の候補者より多かった事例を示し、白票を投じた大阪市民に対して賛成・反対の理由を記述させ、「選挙の意義」の振り返りを行う。

まとめの段階で「投票を義務化すべきでない」という方向性で結論は出ている。学習内容のさらなる深まりのため資料提示を行う。

白票を投じた大阪市民に対して賛成・反対か根拠を明らかにして記述させることは、これまでの学習で獲得した知識・概念を総動員する必然性を生じさせる。その思考過程をふませることで、思考力・判断力・表現力の育成を図りたい。

1 単元名 「選挙の意義」

2 単元の目標

- (1) 国が行う現実の政治に対する関心を高め、自らが自らを治めるという民主政治の基本的な考え方や、その考え方に基づく国の政治のしくみについて意欲的に追究し、さらに、将来国政に参加する公民として、民主的な政治と政治参加の方法について考えさせる。【社会的事象への関心・意欲・態度】
- (2) 国民の代表者から構成される議会で国民の意思を決定する議会制民主主義が、日本の政治の原則になっていることや、主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法として選挙があることをふまえ、将来の主権者として主体的に政治に参加することの意義について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現させる。また、民主的な政治と政治参加に関わる課題を見

いだし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現させる。【社会的な思考・判断・表現】

- (3) 国の政治のしくみに関する資料を、さまざまな情報手段を活用して収集し、その資料の中から、自らが自らを治めるという民主政治の基本的な考え方と、政治のしくみについての学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取らせたり図表などにまとめたさせたりする。【資料活用の技能】
- (4) 国会は、国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関であることや、内閣については、日本が議院内閣制を採用していること、また政党は、議会制民主主義の運営上欠くことのできないものであるということについて、それぞれ理解させる。さらに、多数決が民主的な議決方法として用いられるには、十分な説得と討論が必要であり、そのため言論の自由が保障されなければならないことや、多数決が公正に運用されるためには、反対意見や少数意見が十分に尊重される必要があることを理解させる。【社会的事象についての知識・理解】

3 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
選挙の重要性を認識し、選挙のしくみや課題について追究しようとしている。	日本の選挙制度の長所や短所について考え、投票率の低下や一票の格差などの課題について考察している。	投票率の低下や一票の格差などの課題を解決するための方法について調べ、まとめている。	選挙の意義と日本の選挙制度のしくみや課題について、正しく理解している。

4 単元と指導の構想

(1) 単元と生徒

本単元は『中学校学習指導要領解説・社会編』公民的分野の内容(3)のイを受けて設定した。

(3) 私たちと政治

イ(抜粋)国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、(中略)、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考えさせる。その際、選挙の意義について考えさせる。

内容の取扱いで、「イの選挙の意義については、それが、主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であり、議会制民主主義を支えるものであることを理解させるとともに、良識ある主権者として主体的に政治に参加することの意義を考えさせることが明示されている。その際、具体的な事例を取り上げて関心を高めさせるとともに、正しい選挙が行われることや選挙に参加することの重要性について十分に考えさせることが大切である。」と記載されている。

そこで、現実の選挙の各種データをもとに、選挙を通じて民主主義の実現を図ることの大切さを実感させたい。その際に投票率の低さや一票の格差など、様々な問題が山積しているが、未来の主権者を育てるべく、投票を通じて政治に参加していく資質を培っていきたいと考える。

生徒達は、日頃からペア活動や話し合い活動を好み、意欲的に学習に取り組んでいる。新聞やニュースをよく見ている、時事問題への関心が高い。以下はレディネス調査結果。

質問項目	あてはまる	やや	あまり	あてはまらない
政治に興味がありますか。	調査結果			
国会に興味がありますか。				
内閣に興味がありますか。				
裁判所に興味がありますか。				

地方自治に興味がありますか。	調査結果
選挙に興味がありますか。	
選挙権を得たら、投票に行きますか。	
資料を読み取り、自分の考えをもつことは得意ですか。	
自分が調べたことを班やクラスで発表することに興味がありますか。	
他の人が調べたことから学びが深まったと感じることがありますか。	

上記の数値から、政治や選挙に興味がある生徒が多く、投票という行動へ意欲的な生徒が多い。このことから「投票を義務化すべきかどうか」という交流を組織すれば、「選挙の意義」をより深く学ぶことができると思われる。

(2) 指導の構想

①国政単元のまとめとして、民主主義における「選挙の意義」について深く考えさせる。

第3章：私たちの暮らしと民主政治の単元を貫く追究課題として、「わたしたちの願いはどんなところで、どのように叶えられていくのか？」と設定した。民主主義と日本の政治の単元は全10時間で構成する。第2時間目に「国民の代表を選ぶ選挙」という小単元が設定されている。その時間は小選挙区比例代表制のしくみと一票の格差を重点的に指導し、投票率の低さや選挙の意義は触れる程度にとどめておく。そして、選挙の意義についてより深く学ばせるため国民権と三権分立のあり方を学ぶ国政単元のまとめとして本単元を位置付ける。既習事項をふまえて、「国民はなぜ選挙において投票すべきなのか？」と問う。それは、自分達の願いを叶えることは代表者を選ぶことであり、投票をすることが主権を行使することになるからと、自分のこととしてとらえられるようにしたい。

②UDLの視点からICT機器を用いて、見やすくわかりやすい資料提示を行う。

インターネット上のNHK for schoolを活用し、毎時間50インチTVや、プロジェクターなどのICT機器を活用する。スライドをパワーポイントで黒板に提示してチョークで加筆するなどして、生徒と教師が同じ資料を見て、認識の誤差をなくすように工夫する。

特に、ニュースで日々流れているものは、どんな点がどのように本単元と関連しているのかは、映像を一時停止して、「何が問題なのか?」、「この後どうなるのか?」など問いに活用している。教科書のしくみの図だけでは理解が進みにくい疑問点を1つずつ解消できることや、生徒達の興味関心を引くのに効果があると思われる。

③2時間構成の単元型で課題解決を図り、まとめ・振り返りを行う

単元型の2時間構成とする。1時間目に、総務省が推進する主権者教育教材を活用し、学習課題を設定し、投票を義務化すべきかどうか個で追究させる。本時は2時間目で、考えが類似する者でグループにする。交流を通して新たに気付いたことからまとめへと導いていく。

まとめの段階で「投票を義務化すべきでない」という方向性で結論は出ている。学習内容のさらなる深まりのため資料提示を行う。白票を数多く投じた大阪市民に対して賛成・反対か理由を添えて記述させることは、これまでの学習で獲得した知識・概念を総動員する必然性が生まれる。

5 単元の指導計画（配当2時間）

時	学習のねらい(○)と主な活動内容(・)	評価				
		関	思	技	知	
1	○「選挙の意義」について、投票を義務化すべきかどうか各種資料から読み取り、自分の考えをもつ。 ・各種資料から読み取り、黒板に示された投票を義務化すべきかどうか自分の考えに近い「スケール」にネームプ	○		○		投票を義務化すべきかどうか資料から読み取ったことを根拠としてワークシートに自分の考えを記述することができる。

	レートを貼る。				
2 本時	○「選挙の意義」について、投票を義務化すべきかどうか各種資料から読み取り意見交流する活動を通して、国民が投票すべき理由を説明することができる。 ・前時のプレートの位置ごとに小集団を形成し考えを補完・強化する。 ・交流を図り、まとめを生かした学習活動で「選挙の意義」を深める。		○		「選挙の意義」を踏まえて、白票を投じた大阪市民に対して、賛成、反対の理由を記述することができる。
3	○三権の相互の抑制について考え、三権分立のしくみが権力の濫用を防ぎ、国民の自由を保障しようとしていることに気付く。 ・教科書、資料集で確認する。			○	三権分立のしくみと違憲立法審査権の意義について、正しく理解している。

6 本時の計画（2時間目／全2時間）

（1）本時のねらい

「選挙の意義」について、投票を義務化すべきかどうか各種資料から読み取り交流する活動を通して、国民が投票すべき理由を説明することができる。

（2）本時の構想

①前時の学習課題に対するプレートの位置ごとに小集団の交流を組織する。

前時は学習課題を個でとらえ、投票を義務化すべきかどうか追究することがねらいであった。そこで、本時は導入時にプレートが近い生徒達で小集団をつくり交流させる。こうすることによって自分の考えを補完・強化できるようにする。

司会者に「新たに気付いたことは何ですか。」という問いを司会マニュアルに盛り込み、気付きを生み出させ班で共有させる。

②学級全体の交流を組織する。

小集団で補完・強化された考えを学級全体で交流させることで、対立点から論点が生み出される。投票を義務化すべきかどうかの意思表示は「スケール」で黒板に示されている。そこで、導入時に考えを補完・強化した小集団の代表者から理由を発表させる。そこで対極に位置する生徒同士の発表からは矛盾が生じ、論点が見えてくる。例えば「投票率は低くてもいいのか?」「投票率は高ければ高いほど国民の意見が正しく反映されるのか?」等である。このような論点を黒板に書きこみながら、様子を見て1回目のプレート移動タイムを設ける。その後移動した生徒になぜ動かしたのか理由を問う。そこからさらに用意しておいた「義務投票制は民主主義の国といえるのだろうか?」などの発問を数回投げかけ、2回目のプレート移動タイムを設ける。

そこで改めて「国民はなぜ選挙において投票すべきなのか?」と全体に問い、前時からこれまでにかけて考えてきたことを生徒達とやりとりしながらまとめへとつなげたい。

③振り返りの材料として大阪市長選挙の事例を提示する。

「投票を義務化すべきでない」という結論を学習課題のまとめとして確認している。学習内容のさらなる深まりを図るため新たな資料として、2014年大阪市長選を提示する。この選挙は、無効票が白票の45,098票を含めて過去最多となる67,506票に上り、投票総数の13.53%を占めた。この無効票は、当選した橋下徹以外の3候補の得票合計を上回る票数となったものである。

白票を投じた大阪市民に対して賛成・反対か根拠を明らかにして記述させることは、これまでの学習

で獲得した知識・概念を総動員する必然性が生まれる。その思考過程をふませることで、思考力・判断力・表現力の育成を図りたい。

(3) 本時の展開

時間	学習活動	教師の働き掛けと予想される生徒の反応	■評価 ○留意点
5	<p><1時間目：前時> 導入 1 投票率向上対策として総務省のPR映像を視聴する。</p> <p>2 投票を棄権する理由を班で意見交流し、ランキングを作成する。</p>	<p>T1 今日は「選挙の意義」について学習をします。ところで今回の新潟知事選挙や長岡市長選挙の投票率は高かったですか。</p> <p>S1 あまり高くない。</p> <p>T2 そうだね。投票率向上のために総務省が作成したあるアニメと協力して作成したPR動画を見てみましょう。</p> <p>S2 どんなアニメかな。</p> <p>T3 それは鷹の爪です。では見てください。</p> <p>S3 このキャラクター知っています。</p> <p>T4 投票に行かないということは投票を棄権しているともいえますね。最近の国政選挙における若者の投票率はどれぐらいでしたか。三択です。30%, 50%, 70%</p> <p>S4 30%</p> <p>T5 そうですね。では若者が投票を棄権する理由は何だと思いますか。予想してください。</p> <p>S5 政治に無関心だからだと思います。</p> <p>T6 他にありませんか。</p> <p>S6 誰に投票すればいいかわからないから。</p> <p>T7 他にありませんか。</p> <p>S8 誰に投票しても政治は変わらないから。</p> <p>T8 なるほど。では明るい選挙推進協会が20代に調査した投票に行かない理由をランダムに示します。</p> <p>S8 やっぱり面倒くさいがあった。</p> <p>T9 この理由をランキング形式にしてみましょう。それはベスト3の理由を選んでください。班で意見交流して進めてください。</p> <p>S9 一位は「面倒だから。」だと思うよ。投票所が遠かったはランク外だね。</p> <p>T10 ではランキング結果を伝えます。TV画面を見てください。</p> <p>S10 えっ、1位は「仕事があったから」なの。</p> <p>T11 意外でしたか。でも日曜日は休日の人が多いから投票日となっていますが、日曜日に働いている人たちもたくさんいますよね。</p> <p>S11 たしかにお店の人とかですね。</p> <p>T12 そのような投票できない人達はもうしたらいいのでしょうか？</p>	<p>○資料映像 「総務省×鷹の爪」</p> <p>○プレゼンテーションソフトでテンポよくスライドを提示していく。</p> <p>○班隊形とする。</p> <p>○席を前向きにする。</p>

15	3 学習課題を設定する。	<p>S12 期日前投票とか聞いたことがあります。 T13 そうですね。選挙権の保障は教科書に記載されています。確認しましょう。 S13 こんなにあるんですね。 T14 このように手厚く選挙権を保障していて最近では、選挙年齢も 18 歳に引き下げられるなど、国は何とかして投票率を上げたいとしているのが伝わってきますね。 S14 はい。 T15 そもそも投票ってしなくてはいけないのですかね。 S15 それはしたほうがいいと思います。 T16 このままどんどん投票率が下がって誰も投票しなくなったらどんな社会になるのかな。 S16 う～ん。 T17 では学習課題は何がいいですかね。 S17 なぜ投票する必要があるのか。</p>	
20	4 投票を義務化している国の良い点を資料から読み取る。	<p><学習課題> 国民はなぜ選挙において投票すべきなのか？</p> <p>T18 投票を義務化している国があるのは知っていますか。 S18 えっ。そんな国があるんですね。 T19 義務投票制の国を提示します。 S19 オーストラリアは義務化しているのか。 T20 <資料①>義務投票制のメリット。 これが一番の理由だと思う箇所に線を引いてください。 S20 良い点は投票率が上がる。</p>	<p>○プレゼンテーションソフトで提示する。 ○資料 1 を配布する。</p>
25	5 投票を義務化している国の問題点を読み取る。	<p>T21 義務投票制は良い点だけでしょうか。問題点は何があると思いますか。</p> <p>S21 政治に無関心の人から反発がある。 T22 <資料②提示>義務投票制のデメリット。 これが一番の問題点だと思う箇所に線を引いてください。 S22 政治に無関心の人には義務化すると白票を入れる可能性がある。 T22 資料①、②を読み取ってみて、投票は義務化すべきでしょうか。</p>	<p>○資料 2 を配布する。</p>
30	6 投票を義務化すべきかどうか自分の考えをワークシートに記述する。	<p>S22 う～ん。悩みます。 T23 各自でワークシートに投票を義務化すべきかどうか理由を書いてください。 S23 ①義務化すべきだ。だって高い投票率で投票した人は高い民主的な支持によることが証明されるから。</p>	

35	7 黒板に示された義務化すべきかどうかの「スケール」に自分の考えに近い箇所にネームプレートを貼る。	<p>②義務化すべきでない。政治に無関心の人が投票することは政治的な意思表示にはならないから。</p> <p>T24 本時のまとめとして投票を義務化すべきかどうか自分の意見に近いところにネームプレートを貼りましょう。</p> <p>S24 私は投票を義務化したほうがいいから義務化すべきところにプレートを貼ります。</p> <p>T25 次回みなさんが意思表示したこの段階からさらに学習課題の解決に向けて追究していきます。号令をお願いします。</p>	<p>○黒板に「スケール」を示す。</p> <p>○授業最後の黒板を写真にとり、班編成の材料とする。</p>
45	<p>< 2時間目：本時 > 導入 8 課題に対する交流をする。 【小集団】</p>	<p>T26 全員で学習課題を言ってみましょう。</p> <p>S26 国民はなぜ選挙において投票すべきなのか。</p> <p>T27 この課題を追究するための学習活動として、投票を義務化すべきかどうかの意思表示をネームプレートでしましたね。考えが近い人達で小集団を編成し、現在その座席に座っていますね。これからその考えを深めるために自分がその位置にした理由を伝えあってください。</p> <p>S27 ①私は投票を義務化すべきだと思います。今の日本の投票率の低さは本当によくありません。これでは民主政治をしているとは到底いえません。</p> <p>②私はやや投票を義務化すべきだと思います。絶対義務化とは思わないけど、あまりにも投票率が低いと一部の人の意見で物事が決められるのはよくないと思ったからです。</p> <p>③私は投票を義務化すべきではないと思います。義務化しても政治に無関心の人には白票を入れたり、無効票が増えるだけだと思うからです。</p> <p>④私はやや義務化すべきではないと思います。今のままで特に不都合はないからです。</p> <p>T28 同じ班の人達と意見交流して考えが深まったり新たに気付いたことをワークシートに書いてください。</p> <p>S28 ①多数者による意思決定という民主主義の原則に沿って政治を行うことは大切だ。</p> <p>②政治に無関心な有権者が何も考えずに投票することが「政治的な意思表示」であるということはできないことが分かった。</p>	<p>○前時のプレート位置から、考えが近い者で小集団を編成し、その座席に着席しておく。</p> <p>○黒板には前時同様のプレートを復元しておく。</p> <p>○班隊形とする。</p>
5	9 話を聞いて新たに気付いたことをシートに記入する。		

8	<p>展開</p> <p>10 義務化すべきか考える。</p>	<p>T29 それでは意見が対極の人達に質問します。義務化すべきという意見の人達は、違反者が増えていった場合、どのようにして取り締まっていくのですか。</p> <p>S29 義務なのだから警察に取り締まってもらいます。あるいは罰を与えます。</p> <p>T30 現状で警察は暇ではなさそうですが、さらに仕事を増やすということでしょうか。</p> <p>S30 う～ん。それは困る。</p> <p>T31 次に義務化すべきではないという意見の人達に質問します。若者が投票しないと政治家はお年寄りの意見にばかり耳を傾けてしまいます。若者は我慢していればいいですか。</p> <p>S32 それは違う。今の政治がよく分からないから投票に行かないだけで、分かれば行くとおもう。それには教育が大切だ。</p>	<p>○学級全体の交流を組織する。</p>
15	<p>11 プレートを移動するか考える。</p>	<p>T32 1回目のプレート移動タイムを設けます。今の質問と答えを聞いて、考えが変わった人はプレートを動かしていいです。時間は2分間で。それではスタート。</p> <p>S32 やや義務化だったけど。やや義務化しないにしよう。</p>	
17	<p>12 プレートを移動した人に理由を問い、考えを知る。</p>	<p>T33 プレートを動かした人に質問します。理由を教えてください。</p> <p>S33 やっぱり義務化すると取り締まりが大変だと思ったからです。</p> <p>T34 でもオーストラリアは義務化に成功していますよね。なぜですかね。</p> <p>S34 きっと歴史があるんだ。</p> <p>T35 たしかに100年近く前に義務化したからね。その時の国民はどう感じていたのかな。</p> <p>S35 最初は違反者が多かったかもしれないけど、やっぱり大切なことだからだんだんと選挙に行く人が増えていったのではないか。</p>	<p>○考えが変わることは悪いことではないことを伝える。</p>
19	<p>13 義務化すべきかどうか考える。</p>	<p>T36 義務化すべきでない人に質問です。投票率がどんどん下がれば一部の人が選んだ人になり、それでいいのでしょうか。</p> <p>S36 たしかにそうですね。でも今の政治もそんな感じですよ。</p> <p>T37 投票しないことは今の勢力の人達がさらに有利になります。例えばもともと10万票入っていた人達は投票に行かない人達とは違い、大体選挙ごとに投票します。すると投票数の中で得票数の割合が増えるので、全体としては多くの人に支持されたことになります。今を変えた</p>	

<p>24</p> <p>14 プレート移動するかどうか考える。</p>		<p>いという願いはありませんか。</p> <p>S37 そうか。投票を棄権すると現在の勢力に有利になるのか。</p> <p>T38 投票を義務化すべき人に質問します。今よりも選挙管理に人とお金がかかります。そのお金は税金です。その費用は無駄使いではないですか。</p> <p>S38 う〜ん。そう言われるとそうかも。</p> <p>T39 また、義務投票制をとる国は民主主義の国といえますか？国民の正しい意思表示ですか？</p> <p>S39 たしかに無理やり投票させてもなあ。</p> <p>T40 投票を義務化すべきではない人に質問です。義務化しないと人々は政治問題に真剣に向き合わないのではないですか。</p> <p>S40 義務化しないと関心もたないのは分かる。</p> <p>T41 現に投票率が高い国は消費税もその分高い国が多いです。それだけ社会全体への意識も高くなるのではないですか。</p> <p>S41 たしかにたくさん納めていればどのように自分たちのお金が使われるか気になります。</p> <p>T42 2回目のプレート移動タイムを設けます。今の質問と答えを聞いて、考えが変わった人はプレートを動かしていいです。時間は2分間で。それではスタート。</p> <p>S42 民主主義の国は、政府から強制されて物事を決めない。自分たちのことは自分たちで決めるのだから投票は義務化すべきでない。主権は国民にある。</p> <p>T43 プレートを移動した理由を教えてください。</p> <p>S43 選挙年齢も引き下げられて選挙に関心をもつ人が増えているから義務化すべきではない。</p>	
<p>28</p> <p>終末</p> <p>16 キーワードからまとめへとつなげる。</p>		<p>T44 これまでの意見交流から、なぜ投票すべきなのかに対するキーワードが見られます。黒板を見てください。</p> <p>S44 投票, 政治, 主権。</p> <p>T45 ではまとめます。投票することが・・・</p> <p>S45 主権を行使する。</p> <p><まとめ> 投票することが、主権を行使することになるから。</p> <p>T46 まとめはこれでいいですか。</p> <p>T47 投票を義務化すべきかどうか交流を通して、義務化する国と義務化しない国、どちらが民主主義国家になりそうですか。</p> <p>S47 義務化しない国です。</p>	<p>○席を前向きにする。</p> <p>○黒板にまとめを記入する。</p>

33	17 大阪市長選の資料を読み取る。	<p>T48 そうですね。義務化すべきではないということで、日本は義務化していないですね。ではこの資料を見てください。 <資料③提示></p> <p>S48 大阪市長選だ。</p> <p>T49 自主的な投票とはいえ、白票が3位の候補よりも多かったのです。この時の投票率は23%でした。大阪市のほとんどの人は市長選挙に興味がなかったわけです。それにも関わらずこの白票の多さです。これは選挙としていかなもののでしょうか。</p> <p>S49 どうして多数の白票が入れられたのか。</p> <p>T50 当時大阪市長の橋本徹さんが、大阪市を東京都のように都として政治をしていきたい。だから市民の声を聞きたいので、一旦辞職して選挙するというものだったのです。</p> <p>S50 えっ、そうだったんですね。よくわからん。</p> <p>T51 選挙費用の無駄遣いや他にふさわしい候補者がいなかったため、白票＝無効票で意思表示した人たちが多かったと分析されました。</p> <p>S51 白票を入れている人が多すぎる。</p> <p>T52 白票を投じることは投票に行かない人よりもいいのでしょうか？</p> <p>S52 いいと思う。</p> <p>T53 議会制民主主義の国で、白票を投じることはリーダーを選んでいることになりません。果たしてこれでいいのでしょうか。ちなみに総務省のホームページには【選挙の意義】がこうに示されています。</p>	
40	18 振り返りをワークシートに記述する。	<p>S53 やっぱり白票はよくないですね。</p> <p>T54 資料③を見て、白票を投じた大阪市民に賛成しますか。反対しますか。これまでの学習を踏まえてその理由を記述してください。</p> <p>T55 みなさんのおかげで課題解決からまとめ・振り返りと【選挙の意義】について深めることができました。ありがとうございます。以上で授業を終わります。号令お願いします。</p> <p>S55 起立、ありがとうございました。</p>	<p>■思考・判断・表現 ワークシートの記述から</p> <p>A 賛成・反対の根拠として、国民主権と選挙権に関連させてある記述がある。</p> <p>B 賛成・反対の根拠として、国民主権または選挙権にふれている記述がある。</p>

(4) 本時の評価・・・振り返りワークシート記述から

- A 賛成・反対の根拠として、国民主権と選挙権に関連させてある記述がある。
- B 賛成・反対の根拠として、国民主権または選挙権にふれている記述がある。

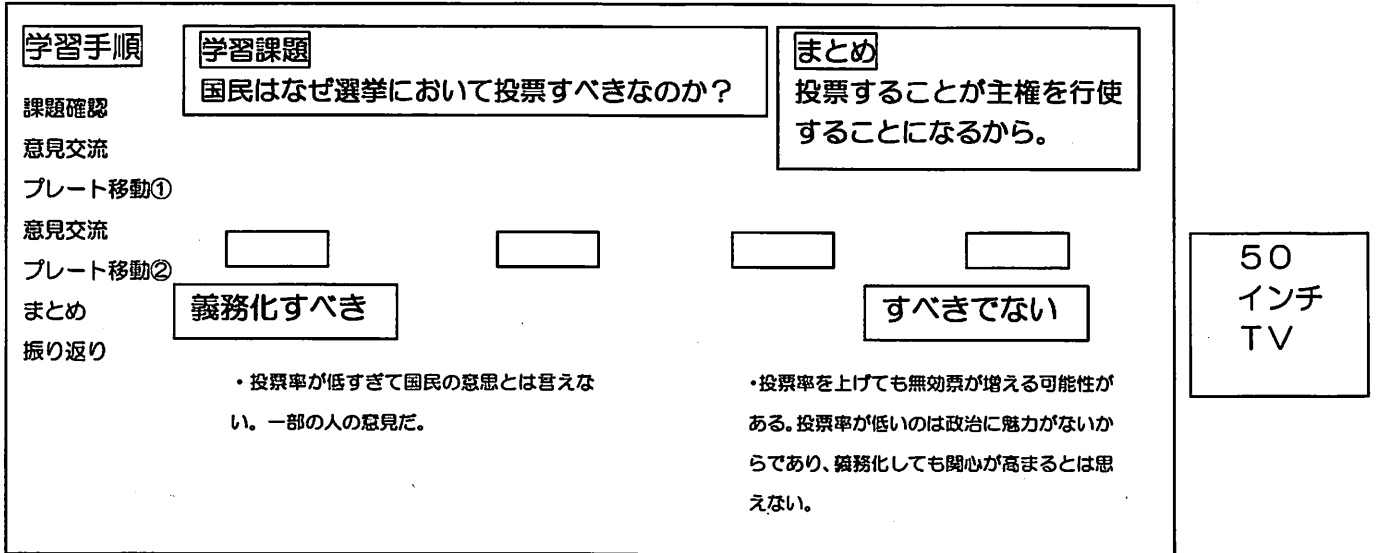
<B評価記述例①>

私は白票を投じた大阪市民の行動に賛成です。理由は、適当な候補者がいない場合に、自分は現在どの政策にも賛成できませんという意思表示を示すことになると思うからです。

< B 評価記述例② >

私は白票を投じた大阪市民の行動に反対です。理由は、いくらふさわしい候補者がいないからといって白票を投じることは、自分たちの意見を反映する人を選んでいることではないと思うからです。

(5) 板書計画



7 参考文献・資料

- ・中学校学習指導要領解説 社会編 平成 20 年 9 月 文部科学省
- ・中学社会 公民 ともに生きる 教育出版
- ・ビジュアル公民 2016 東京法令出版
- ・話したくなる世界の選挙 清水書院
- ・日本経済新聞 2011 年 8 月 29 日 33 面
- ・もう投票を義務化するしかない? <http://aStion-now.jp/arShives/5675>
- ・「若者の意識を知って、若者の投票率向上の方策を探る」
総務省HP 主権者教育・・・青森市明るい選挙推進協議会会長 渡部 一清
- ・TheVote.jp 選挙と政治のニュースメディア
<http://thevote.jp/tokushu/2016/06/Sompulsory-voting/>
- ・公益財団法人 明るい選挙推進協会 <http://www.akaruisenkyo.or.jp/>
「総務省×鷹の爪団」映像